

(様式1)

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名

原田 瞳

研究分野

学位

看護学

修士(看護学) 順天堂大学大学院医療看護学研究科

研究内容のキーワード

精神看護学 看護教育 臨地実習

教育上の能力に関する事項

事項

年月日

概要

1. 教育方法の実践

1) 精神障害のある患者理解と看護を学ぶための臨地実習指導
(精神看護学実習・総合実習)

平成22年4月～

精神科病棟において、実習指導者と協働し、精神科に入院する患者への看護実践、患者とのコミュニケーション、プロセスレコードの記入と自己の振り返り(再構成)、学生企画レクリエーション等の臨地実習における指導を实践

2) オレムアンダーウッド理論を用いた事例の看護過程の展開(精神看護支援論)

平成22年9月～

急性期・慢性期の統合失調症患者の事例を提示し、オレム・アンダーウッド理論を用いて、情報収集、アセスメント、看護の方向性、看護計画の立案までの看護過程の展開を作成し、看護過程の展開の演習指導を实践

3) 看護研究指導(卒業研究)

平成29年4月～

テーマに沿った文献検索、文献検討、分析、考察について個別ゼミ指導を行い、看護研究論文作成および発表の実施。

2. 作成した教科書、教材

1) オレムアンダーウッド看護理論を用いた看護過程の事例Aの展開

平成22年9月～平成30年1月

急性期の統合失調症患者の入院1週間後の模擬事例を作成し、セルフケア項目に沿った情報収集、アセスメント、看護の方向性、全体像、看護計画について看護過程が展開できる教材の作成とともに内容例を提示し、授業を展開した。

2) 精神障害のある患者理解と看護実践を学ぶための模擬病院、事例1～4の作成(学内実習)

令和2年6月～令和4年2月

急性期の統合失調症患者1名、慢性期の統合失調症患者3名について、模擬事例を作成した。また、患者らが入院している模擬病院の見取り図、病棟タイムスケジュールを作成し、アセスメントだけではなく、実際の時間の流れを想定しながら看護過程展開ができる教材を作成し、看護過程の展開及びロールプレイを実施し、学内実習を展開した。

3. 教育上の能力に関する大学等の評価

特記事項なし

4. 実務の経験を有する者についての特記事項

特記事項なし

職務上の実績に関する事項

事項

年月日

概要

1. 資格、免許等

看護師

平成10年4月

2. 所属学会

日本精神保健看護学会

平成22年6月～

日本精神障害者リハビリテーション学会

平成22年10月～

日本看護科学学会

令和4年4月～

クライシスプラン(CP-J)研究会

令和5年4月～

3. 実務の経験を有する者についての特記事項

特記事項なし

4. その他

1) 科学研究費補助金(基盤研究C)「応援概念に基づく精神障害をもつ人の子育て支援アプローチの開発にかかわる研究」

平成31年～令和4年度

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発刊雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 精神科に勤務する新卒看護師のメンタルヘルスに関する研究の動向	共著	平成23年2月	共立女子短期大学看護学科紀要第6号 pp. 55-64	精神科病棟に勤務している新卒看護師を対象にした文献に焦点を当て、メンタルヘルス維持を困難にする要素を明らかにし、困難要素に対するコーピングスキルについて検討することを目的とした。困難要素は、1)新卒看護師特有の未熟な対人関係、2)精神科看護特有の患者との関係性、3)患者に抱く否定的な感情、の3要素があり、困難要素に対するコーピングスキルは、1)精神科特有の知識、技術を習得し「対人関係スキル」と向上させていくこと、3)患者理解と自己洞察を深めてストレスマネジメントをしていくこと、の3点が明らかとなった。共同研究者：原田瞳 石川幸代
2. 精神科新卒看護師のコーピングスキル育成に関する研究	共著	平成24年2月	共立女子短期大学看護学科紀要第7号 pp. 75-80	本研究は、精神科における新人教育の実際から新卒看護師のコーピングスキル育成方法と今後の課題を検討することを目的とした。評価面接や看護実践を通してケアや自分を振り返る機会は、新卒看護師の対人関係スキルの向上や自己洞察を深め、看護技術の向上につながっていること、困難の解決には、プリセプターなどの信頼できる他者の存在が不可欠であることが示唆された。共同研究者：原田瞳 石川幸代
3. (修士論文) 精神看護学実習における看護学生が統合失調症患者の実像を捉えるプロセスと影響要因	単著	平成27年3月	平成 26 年度 順天堂大学大学院医療看護学研究科看護学専攻 修士論文	精神看護学実習にて初めて統合失調症患者を受け持つ学生が、患者の実像を捉えていくプロセスを明らかにし、その過程に影響を及ぼす要因を抽出した。初めて統合失調症患者を受け持つ学生が患者の実像を捉えるプロセスは、患者の見方と関わり方を学び安心して患者と関わりながら「患者と向き合う覚悟」を固めることで患者の実像を捉える行動に至るプロセスであった。
4. 医療分野において健康問題を抱える人へ実践されている応援の概念分析	共著	令和4年9月	日本看護科学学会誌 42巻P652-660	日本の医療分野で健康問題を抱える人へ実践されている応援の概念分析を行い、定義を明らかにすることを目的とした。医療分野の応援は、生き方の模索が続く健康問題を抱える人への【自分らしくあることの困難性への共感】に基づいて、医療者が【その人らしく生きるために味方になり新たな活動を試みる】ことで【その人の主体性の高まりに医療者としての自分らしさが充実していく】過程であった。 共同研究者：澤田いずみ、道信良子、石川幸代、小川賢一、原田瞳
(学会発表、講演など) 1. (学会発表) 精神看護学実習における学生企画レクリエーションの導入と効果	共著	平成24年6月	日本精神保健看護学会第22回熊本大会	精神看護学実習にて学生がレクリエーションを企画実施した学びを分析し、学習効果と課題を明らかにした。実施後の学びから、①参加を促すことや患者の反応、変化から患者理解への気づきや深まりにつながった、②患者の反応や変化から、レクリエーションが患者の意欲や主体性、社会性の回復に効果があることが理解できた、③参加への促しや働きかけ、参加方法を工夫することで、精神に疾患を持つ患者への看護実践につながり、学習効果が得られた。 日本精神保健看護学会第22回学術集会抄録集、pp138-139 共同研究者：原田瞳 石川幸代 緑川綾
(その他) 1. (インタビュー記事) レクリエーションは精神科看護師にとって「宝箱」である		平成28年11月	精神科看護11月号、 精神看護出版	「レクリエーションの中から看護を考える」特集。精神科病院におけるレクリエーションの変遷や意義、効果、レクリエーションにおける相互作用、看護師が実践することへの課題等について語った。精神科において看護師がレクリエーションを実施することは、患者との喜びの共有、ポジティブな体験を通してより精神科看護的なかかわりができることが明確になった。インタビュー：石川幸代、原田瞳